

安心をすべての人に届けたい

公式ホームページ  
http://sakuraisuguru.jp/



well-being 通信

well-being (ウェルビーイング): 幸福、健康で満たされた状態

北本市議会議員  
桜井すぐる

第44号

## 全小・中学校体育館にエアコン、来年度冬に設置 学童保育の指定管理者はうさぎっ子クラブが継続

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。2025年が皆さまにとって素晴らしい年となることを祈念いたします。

さて、今号では北本市議会12月定例会で決まったことや私の一般質問の内容をお知らせします。

### 市内全小・中学校体育館の空調設備設置 断熱化はせずに来年度冬に工事へ

市民からの要望が多かった小・中学校体育館への空調設備(冷暖房)の設置が実施されることになりました。事業費は10億271万2千円です。財源は約10億円が市債ですが、国からの財源措置があるため、実質的な市の負担は約3億円です。

市では、設置に当たり断熱工事を行うかどうかを検討しましたが、断熱工事に要する追加費用を断熱化による光熱費低減分で回収するのに50年近くを要する(体育館自体の建替えが必要となる)ことから、**新たな断熱化は行わず、空調設備の設置のみを行うこと**としました。なお、一部の体育館はすでに断熱化されています。

令和6・7年度の継続事業で、今後実施設計を行い、設置工事は来年度の冬頃になる見通しです。

断熱あり・断熱なしの市負担額比較(1校分・千円)

区分	断熱あり	断熱なし	差額
空調工事費	27,213	23,941	
断熱工事費	21,393	0	
機器更新費	16,335	22,608	
工事費計	64,941	46,549	18,392
年間維持費	704	1,084	△380

追加工事費用の回収に要する年数  
18,392(千円)÷380(千円)=48.4(年)

### 小学校のプール授業も民間委託へ

本市では令和3年度から全中学校の水泳授業を民間委託して実施してきましたが、小学校全校の水泳事業についても来年度から民間委託することとなりました。実施施設は協議中ですが、バスで移動し、民間事業者の指導のもと、水泳授業を行うこととなります。

#### ★民間委託のメリット・デメリット

- 専門的な指導による泳力の向上
- 教員の負担軽減
- プール維持管理費の削減
- × 学校～施設のバス移動時間
- × 着衣泳の実施が困難



### 4つの公の施設の指定管理者が決定

下表のとおり、4施設の来年度以降の指定管理者が指定されました。いずれも公募されましたが、障害児学童と地区公民館等は応募が1社だけでした。

市民から随意指定を求める請願があった学童保育室は、市長の判断で公募となりました。2社の応募がありましたが、引き続きうさぎっ子クラブが指定されました。この結果には安堵していますが、**請願や議会議決を無視して公募したことに対しては大きな憤りを感じています。**

旧栄小を改修し、コミュニティセンター等の機能を移転して開設される栄市民活動交流センターの指定管理者は、街活性室株式会社・北本市観光協会等が構成員となった北本未来づくり共同事業体が指定されました。

施設名	指定管理者	期間(年度)
障害児学童保育室	NPOすきっぷ	R7~9
学童保育室	NPO北本学童保育の会うさぎっ子クラブ	R7~9
地区公民館学習センター	(一社)北本市コミュニティ協議会	R7~11
栄市民活動交流センター	北本未来づくり共同事業体【新規】	R7~10

### 公民館の利用料金、計算ミスにより再度の改正

今年6月議会で地区公民館の利用料金を改定する議案が賛成多数で可決されましたが(桜井は反対)、その後、指定管理者の指摘により一部の施設で算出基礎となる面積を誤って利用料金を算出していたことが判明し、これを修正するため再度の改正を行うことになりました。

また、利用者からの苦情が多かった卓球の利用料金について、最も引上げ幅が大きかった中丸公民館の1面利用面積を従来のホール4分の1面から6分の1面に縮小することで利用料金を引き下げました。

**改正前に指定管理者や利用者に意見を聴いていれば避けられた再改正**であり、今後の改善を求めました。

主な施設の利用料金上限額(単位 円)

施設名	区分	午前	午後	夜間	全日
西部公民館第1講義室	現料金	1,000	1,000	1,000	3,000
	改正前	1,150	1,500	1,500	4,150
	改正後	500	650	650	1,800
中丸公民館ホール(卓球1面)	現料金	100	200	300	600
	改正前	450	600	600	1,650
	改正後	300	400	400	1,100

## 新教育長が思い描くこれからの北本の教育について(教育長答弁)

Q. 国はみんな一緒に・同じペースで・同じことを学ぶ一斉授業や形式的平等主義が同調圧力や正解主義を生み出し、価値創造やイノベーション創出の最大の敵になっていることを反省し、子どもの主体性や探求力を重視する個別最適な学びと、対話を通じた納得解を形成し社会性を身につける協働的な学びの一体的充実を推進している。自分合ったやり方、ペースで学べるようになり、個人の努力が評価されるようになれば、勉強が楽しくなり学校に行きたくなる子も増える。同調圧力が薄まれば、いじめや不登校の減少にもつながる。本市において、この教育を全国でも先進的と言われるくらいにしっかりと実践していただきたいと考えるが、教育長の見解は。

A. これまで教師は「教える人」だった。子どもたちがどのように学び、教師が見取っていくか。子どもたちがどう学んだかに焦点を当てる必要がある。授業改善やICTの活用により、一人ひとりの学習状況の把握や補充学習・発展学習を実施することで個別最適な学びを充実させると同時に、教師の負担を軽減することが課題。教師がティーチャーからファシリテーターとなり「与えて、させて、見回り、急がせる」指導から「聞いて、助けて、任せて、見守る」支援ができるよう学校を支援する。

Q. いじめの認知件数が増加している。同質性・均質性を高めるのではなく、一人ひとりの個性・思いを尊重する「子ども主体の学校づくり」を進めることで、他の人を尊重できるようになり、学校の風土も良くなり、いじめの減少につながるのではないかと。

A. 子どもたちが目を輝かせ、仲間と触れ合い、笑顔で学校生活を送ることができる学校が「学校の原風景」。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に改善することで、一人ひとりの個性・思いを認め合える風土が醸成される。子どもたちの良さを活かせる場を意図的に設けることで、学校の風土が良くなり、いじめの減少につながるものとする。

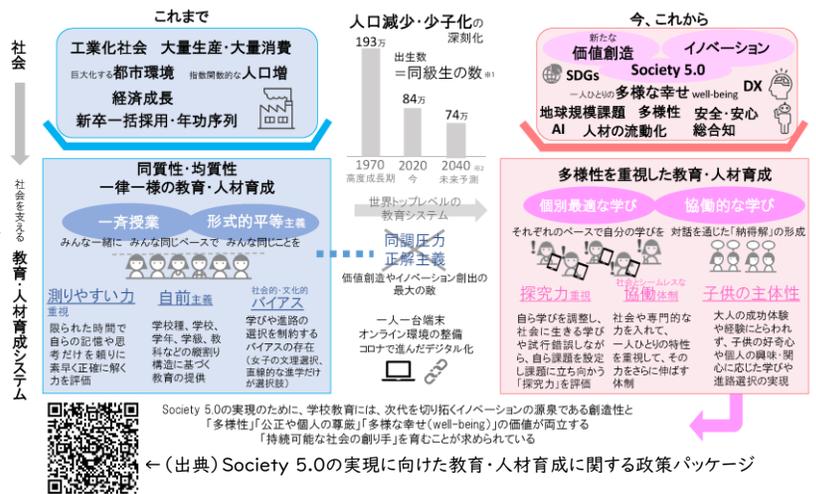
Q. 不登校児童生徒数が増加しているがどのような要因があるか。

A. 友人関係のトラブルや学業不振などもあるが、コロナ禍を経て休むことへの抵抗感が低くなったり、多様な学びの場への理解・選択が進んでいることもある。

Q. 楽しい、行きたいと思える学校にするために同調圧力を減らす、教師主体の指導から子ども主体の支援に変えることなどが有効と考えるが、それでもなお学校に馴染めない子にはどのように関わっていくか。

## 2. 教育・人材育成システムの転換の方向性

統制のとれた組織のもとで機械・設備に合わせて標準化される工業化社会においては、同質性・均質性を備えた一律の教育・人材育成が求められ、一斉授業・平等主義のもとに世界トップレベルの教育・人材育成システムが日本の大きな経済成長を支えてきた。しかし、人口減少・少子化の深刻化とともに、目の前にある新たな価値創造「イノベーション創出」「一人ひとりの多様な幸せ」を目指すSociety 5.0時代、DX、そしてアフターコロナという大きな時代の転換期にある今、すべての子供の可能性を最大限引き出す教育・人材育成システムの根本的な転換が急務。

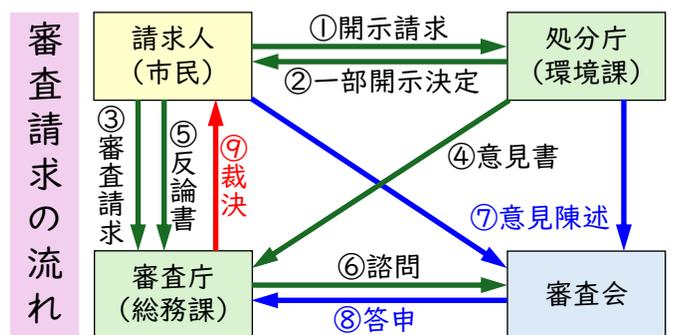


A. 本人・保護者の意向を踏まえた支援を行うこと、つながりを切らさず関わっていくべきと考える。最善の支援方法を探り続け、自己選択・自己決定を促すことが大切。未来を担う子どもたちを育てる学校教育の使命として、組織的に対応する。

## 行政文書一部公開決定処分に対する 審査請求の対応について

Q. 行政文書情報公開請求に対し一部を非公開とする決定を受けた市民が審査請求(不服申立て)をしたところ、審査会は全部公開するよう答申したが、審査庁(総務課)が裁決をする前(⑧と⑨の間)に処分庁(環境課)が全部公開をしたことで、審査請求は却下された。答申は附属機関の意見にすぎず、裁決が審査庁の意思決定である。裁決前に処分庁が全部公開したのはなぜか。ガバナンスが崩壊しているのではないかと。

A. (市長) 審査会の答申を重く受け止め、公開請求から1年近くが経過しており速やかに請求者の権利救済を行うことが妥当と判断し、裁決を待たずに全部公開した。一方的に通知を送ったのではなく、事前に電話連絡し、送付方法の意向を確認した上でお送りした。



発行者：桜井すぐる後援会(代表：桜井卓)  
住所：〒364-0034 北本市高尾1-166-6  
元埼玉県職員。51歳。会派：緑風会 所属。  
令和元年5月～北本市議会議員(現在2期目)  
健康福祉常任委員会、埼玉中部環境保全組合、  
新たなごみ処理施設等建設検討委員会委員

お困りごと、お気軽にご相談ください  
090-9389-3572(桜井携帯)  
sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com

